

河内神社報

発行所:〒731-5151
広島市佐伯区
五日市町上河内
http://kochijinija.org
河内神社
社務所

初詣は氏神様から

宮司 山田 茂雄

氏神様は我々が日々の生活を見守る地域の一番身近な神様です。新しき年が良い年でありますよう、地元の氏神様・河内神社にまずは初詣し、今年一年の幸せを祈願しましょう。平成23年は日本にとつて大変な年でした。復興には何年もかかると思われます。日本人はそのような中でも互いに助け合い、秩序ある行動で対処してきました。海外からはその対応に賞賛が贈られました。古来より日本人は豊かな自然に育まれ、災害にも負けず、神に感謝し助け合い、稲作を中心に尊い命を繋いできました。その歴史は一人一人の遺伝子の中に刻まれており、行動は当然だったのかもしれないかもしれません。近代化の中で忘れかけていたものを改めて感じさせられました。

そうした心の支えとして、我々氏子の子孫の八十続きに至るまで氏神様・河内神社に見守って頂きましょう。



正月のお祭りと行事

歳旦祭(元日・午前9時) 新年を迎えられたことに感謝し皆様の健康と安寧を願い、祭式を行います。

参拝・授与所始め(元日・午前0時) 御札、御守、福入り御神籤、破魔矢、招福熊手、干支土鈴など授与します。元日は、あつたか甘酒、お子様にはしあわせポン菓子配布(数量限り)もあります。



新年祈願受付(元日・午前0時から) 家内安全、合格祈願、交通安全、安産祈願、商売繁盛、厄祓い、歳祝いなど拝殿にて受け付けます。

元日 午前0時〜午後5時
2日 午前8時〜10時は歳旦祭のため受付休止
3日 午前9時〜午後5時
4日以降 電話でご予約ください。

河内神社社務所(082)928-2283

獅子舞登場(元日・午前10時と午後0時半) 河内神社の境内にて、獅子舞同好会による開運厄除け獅子舞が行われます。

男		女	
25歳	42歳(大)	19歳	33歳(大)
〔厄年早見表〕 数え年	61歳	37歳	
前厄 平成元年(1989)	前厄 昭和28年(1953)	前厄 平成7年(1995)	前厄 昭和56年(1981)
本厄 昭和63年(1988)	本厄 昭和46年(1971)	本厄 平成6年(1994)	本厄 昭和55年(1980)
後厄 昭和62年(1987)	後厄 昭和45年(1970)	後厄 平成5年(1993)	後厄 昭和54年(1979)
			昭和50年(1975)

喜寿 77歳 昭和11年生(1936)	古稀 70歳 昭和18年生(1943)	還暦 61歳 昭和27年生(1952)	傘寿 80歳 昭和8年生(1933)	米寿 88歳 大正14年生(1925)	卒寿 90歳 大正12年生(1923)	上寿 100歳 大正2年生(1913)	白寿 99歳 大正3年生(1914)
---------------------	---------------------	---------------------	--------------------	---------------------	---------------------	---------------------	--------------------

氏神様・河内神社の御札とともに神宮大麻(伊勢の神宮の御札)をおまつりしましょう
皆様の家庭に「パワースポット」を!

身近で見守る地元の氏神様「河内神社」の御札と日本全土を広く見守る神様「天照皇大神」の御札をおまつりしましょう。「いつも家庭に災いなく、家族みんな元気に暮らせませすよー」祈る心、神様の恵みに感謝する心を持ち続けることにより、家族の絆が深まります。



新しい命を頂くため、御札、御守は新しく取り替えます。古い御札、御守は氏神様に納め、一年を無事に過ごせたことに感謝しましょう。御札、御守等は河内神社で授与しております。

伊勢の神宮 小大麻 800円	交通安全・開運・厄除
神宮 中大麻 1200円	合格・健康長寿・仕事
河内 御札 500円	就職・金運・良縁結び
神社 中御札 1000円	各種御守 500円
神宮 曆 200円	破魔矢 1000円
小型神棚 1000円	招福熊手 1000円
御神籤 100円	土鈴(たつ) 800円

御札のまつり方
横に並べてまつる場合
重ねてまつる場合



お神札のまつり方

重ねる場合、手前から神宮、河内神社、崇敬する神社の御札の順におまつりします。



平成24年の河内神社のこよみ

上河内・下河内・上小深川・下小深川・藤の木・河内南(彩が丘)の氏神様

1月1日(祝)	午前9時	歳旦祭
2月11日(祝)	午前10時	建国記念祭
3月11日(日)	午後2時	稲荷神社大祭
4月8日(日)	午後2時	祈年祭(大祭)
4月29日(祝)	午前10時	河内忠魂社慰霊祭
7月1日(日)	午後2時	夏祭、夏越大祓、茅輪神事
7月15日(日)	午後2時	祇園祭(御旅所御神幸)
8月14日(火)	午後7時半	献灯祭
10日13日(土)	午後6時半	秋祭前夜祭(神楽奉納)
10月14日(日)	午後2時	秋祭(例大祭)
11月15日(日)	午後2時	七五三祭
12月9日(日)	午後2時	新嘗祭(大祭)
12月31日(月)	午後6時	除夜祭(大祓)
毎朝		日供祭
毎月1日・15日		月次祭

出張祈願祭も受付

地鎮祭(新築)、家祓(入居)、上棟祭、商売繁盛、安全祈願、開店祭等日時のご相談、ご予約ください。河内神社へのアクセス(周辺図)



神楽 — かくら

① 共存する広島県の神楽 瀬原 山田 岳晴

広島県では神楽は「よごろ」とも呼ばれ、ほぼ集落の氏神社ごとに行われ、秋の例祭の前夜祭として人気が高い。

神楽には、常設の舞台(神楽殿)は本来、必要とされないが、江戸末期から常設の舞台兼用拝殿が一部で建てられている。夜冷えや雨対策が主な目的であるが、兼用は見物に難がある。拝殿とは別に舞台を仮設することもよくあり、見せ所の一つである足の運びがよく見えるように床高は1m程度と低い。広島県には、十二神祇、芸北神楽、備後神楽、荒神神楽、芸予諸島の神楽の5系統がある。

十二神祇は、江戸初期には普及していた伝統的な安芸の形式で、現在は広島県南西部で伝承される。五行の龍王に由来する舞が多い。また、万能の杖を持つ関(荒平)や、将軍とよばれる舞いが特徴的である。河内神社の神楽も十二神祇が基本となっている。安芸一宮の厳島神社の舞楽とも似た動きがみられる。



石見神楽の影響が濃い。伝承に2系統あり、東の高田舞と西の山県舞に大別できる。塵倫、八岐大蛇などの舞いがある。高田舞では、明治期に地元宮司による神武の創作があり、第二次世界大戦後はGHQ取り締まり回避を図り、民間芸術として物語性を強めた舞いを多く創作した。派手な衣装、速い動き、劇的要素により人気が高まっている。

備後神楽は、県南東部に分布し、江戸末期には一般化した備後の形式である。儀式、儀式舞、神祇舞からなり、荒神信仰に基づく。陰陽五行説に由来する弓神楽や五行祭がみられ独自性が強い。

荒神神楽は、県北東部に伝わる。荒神信仰に基づくが、現在の舞いは備中神楽の影響が大きい。庄原市には出雲神楽の影響を強く受けた齋庭神楽もある。

芸予諸島の神楽は、瀬戸内海沿岸と島嶼部に分布する。江戸後期に伊予一宮の大山祇神社周辺で確立された。人形を用いる託宣神事を伝えるものもある。



河内神社ホームページ

河内神社平成22年度決算

〔繰越金〕百八十六万円／〔歳入〕七百三十六万七千九百五十円／〔歳出〕五百九十三万二千円／〔残金〕三百二十九万五千円。(歳入の主なもの) 祈禱料百十五万円、賽銭六十一万円、御札・初穂料・破魔矢等二百五十一万円、玉串料百六十四万円、御札・初穂料・破魔矢等百三十六万円、出の主なもの) 祭典費四十七万円、神職給二百五十万円、御札・御守・破魔矢等の仕入百一十一万円、会議費、雑費等百三万円、教化費・保険・負担金等八十七万円、(金内訳) 予備資金百五十万円、繰越金百七十九万円、(決算報告は、毎年4月に監事により監査を受け、氏子総代会にて承認を受けています)